

## PTA講演会がありました！

**2023年**  
**伊賀良小学校PTA講演会**  
**大好きは伝わっていますか？**  
～子供への伝え方を考えよう～  
公開講演(参加費無料)

**日時** 2023年11月16日(木)  
15:10～15:50

**場所** 伊賀良小学校第1体育館

**内容** 親子がうまくいかないことがよくあります。親が子供に伝えたいことは「どんなことがあっても、いつも大好きだよ」ということだと思います。それは親にとってはあまりに当たり前のことですが、子どもにはちゃんと伝わっていないことが少なくないのです。どうしたら伝えられるかを考えます。

**講師** 和田 浩 先生  
1956年熊本生まれ、1987年新潟大学医学部卒業、1987年から緩和病棟小児科勤務。  
著書『健康な子どもってどんな子？』『子供の異変ハンドブック』『健康の子供科医と保護者(共著)』など

お問い合わせ先 〒395-0151 飯田市北方3872-1  
伊賀良小学校 TEL 0265-25-7208

Scanned with AnyScanner

11月16日(木) 健和会病院 小児科の 和田 浩 先生を講師にお迎えしPTA講演会を開催しました。

今回の講演では、『大好きは伝わっていますか？』  
～子供への伝え方を考えよう～

というテーマのもと、和田先生自身の経験談から小児科医を志すきっかけに至るまで。また親子の関わりについて、様々なケースをあげてわかりやすく教えてくださいました。

会場にご来場いただいた保護者の皆さん、誰もが一度は子育てをしていて経験のあるようなことだったと思うので、共感できた方も多かったのではないのでしょうか。

『こどものそのままを受け入れ、大好きと伝える。』  
簡単なようで、日々の忙しい時間の流れの中では実践が難しいこともあると思います。講演を聞いて大切なことに気づけたような気がしました。  
和田先生、貴重な講演を聞かせていただき、ありがとうございました。



教養部 宮澤部長より

ここ数年は、コロナの影響もあり、学校内で児童向けの講演会が開催されてきましたが、数年ぶりに保護者を対象とした講演会を企画しました。講演を聞きながら、日常生活の中で無意識に出てしまうような言葉に誰もがドキッとしたのではないのでしょうか？ 普段の子供との関わり方を振り返るよい機会になったと思います。

和田先生ありがとうございました。

## 伊賀良小学校PTAのみなさま

健和会病院小児科 和田 浩

先日は私の話を聞いていただき、たくさんの感想や質問をお寄せいただきありがとうございました。感想を読んだ私の感想や質問へのお答えをお送りします。ご質問の中には、短い文面だけでは意図が十分つかめなかったものもあり、それについてはお答えは避けました（ご質問は原文そのままではありません）。

Q：小4の子が甘えんぼうで、まだ人前でも手を繋いでできたりします。小さい頃甘えるのが足りなかったのかな、普段から愛情表現が足りないからなのかなと不安も感じます。よく甘える行為は愛情不足と関係あるのでしょうか。

A：子どもはいくつになっても親には甘えたい、どんな甘え方をするかの違いだと思います。幼いうちはストレートな甘え方をしますが、思春期になるとそれはいやになります。どのへんで切り替わるかは個人差が大きく、4年生くらいだと、どっちも普通でしょう。今手をつなぎたいなら喜んで手をつないであげれば良いと思います。「小さいころ甘えるのが足りなかった」と感じるなら、今いっぱい甘えてもらえば良いと思います。

Q：具体的に飯田で子育て中の保護者が相談出来る場所はあるのでしょうか？知り合いには話せず、1人で抱えている方が頼れる相談先が分かると、いざという時安心かと思いました。

A：飯田市の子育て支援課・ゆいきっずとは日常的に連携していますが、けっこういいねいに対応してくれていると思います。相談・予約22-4511（内戦5343）。

各地にある「つどいの広場」でも相談にのってくれます。

健和会病院小児科でも、病気のこと以外でもいろいろな相談にのるようにしています。できれば「こんなことで相談したい」と事前に電話で言っただけだと助かります。23-3115（病院代表電話）

Q：娘は癇癪が強い。癇癪を起こしたとき、どんなに泣き止ませようとも言葉をかけようとも止められず、そのうち自分までイライラしてきてしまい、強く叱りつけて更に状況が悪化してしまう。どのような対応をしたら良いのか。

A：そういうことありますね。私が「正解」を知っているわけではないのですが、考え方として大事だと思うのは、ひとつは「泣くことは悪い事ではない。泣くという形で気持ちを表現できるのは、気持ちを表に出せないよりはずっといい」ということ、もうひとつは「泣きたい気持ちを言葉で表現できればもっといい」そのためには「さっきの〇〇が悲しかった？」と、親が言葉にしてあげてを繰り返していくことで、言葉で伝えられるようになっていくのではないかと（すぐにはそうなりません）ということです。

Q：PTAのコミュニティ、対話や相互理解の機能・役割は、もう必要がないものなのか、必要がなくなってしまうものなのか、また、こうした環境にあって、今後のPTAはどうあるべきなのか。

A：子育てをするうえで、親同士のつながりは非常に重要だと思います。相談ができたり支えあったりする関係です。そういうつながりのひとつとしてPTAの役割も重要だし、今後も必要なくなることはないと思います。ただ役員の方の負担軽減とか、参加しやすい形とか、工夫が必要な面もあるのかもしれませんが。

感想：親も間違ってもちゃんと謝れば大丈夫との言葉にとても救われました。

コメント：何人の方が、同様のことを書いてくれました。多くのお父さんお母さんが「しまった。今のは言い過ぎた」と感じる経験をしているのだなとあらためて思いました。「言い過ぎてしまった時は今でも素直に謝っております。子供も自分が言い過ぎた時は謝ってきてくれます」と書いてくれた方がいました。親が謝るという見本を示しているからこそ、そこから学んでいるのです。素晴らしいと思いました。そういう意味では言い過ぎた時こそそういう態度を学んでもらうチャンスかもしれませんね。